

ChatGPT

Gemini

活用方法

簡単比較ガイド



ChatGPT・Geminiの特徴

ChatGPT (OpenAI 開発)

自然な日本語表現や論理的な文章生成を得意とし、対話を重ねながら内容を深掘りできる生成AIです。企画書や提案書の下書き、要約、翻訳、資料作成など、バックオフィス業務から企画・編集業務まで幅広く活用されています。

プログラミング分野では、コード生成やデバッグの補助、設計アイデアの整理などにも対応しており、開発現場での利用実績も豊富です。多言語対応に優れているため、海外文書の翻訳やグローバル業務に向いているほか、法令や社内規程など、構造が複雑な文書を整理・要約し、論点を明確にする用途にも適しています。さらに科学的な推論能力が飛躍的に向上したo1の登場によって、実行プランの妥当性検証にも使えるようになりました。専門家レベルの性能を発揮するGPT-5.2 Thinking は、実務的な知識業務のタスクにおいて有用です。

特徴まとめ

- 会話が自然で、人間に近い表現が可能
- 長文の生成・要約・構造化に強い
- API を通じた業務システム連携が可能
- Microsoft 365 とは API や Copilot 経由での連携が可能
- 画像や音声を含むマルチモーダル入力にも対応
(業務ツール連携は外部連携が中心)

Gemini (Google 開発)

Gemini は Google が開発する生成AIで、Google 検索や Google Workspace との連携を前提とした設計が大きな特徴です。最新ニュースや制度改正など、検索結果をもとに根拠づけながら情報を整理・要約する用途や業務の起点となるハブの役割に強みがあります。

テキストだけでなく、画像や音声も扱えるマルチモーダル対応を標準で備えており、資料内の図表や画像を含めた解析も可能です。

Gmail、Google Calendar、Google Docs などと一体で利用できるため、日常業務の延長線上で AI を活用しやすい点も評価されています。AIが一度に理解・処理できる情報量（短期記憶）に強みがあり、数年にわたる契約書や議事録などの長大な文書を扱う場面でも、全体の文脈を踏まえた要約や整理が可能です。

特徴まとめ

- Google 検索と連動し、最新情報を反映した回答を生成
- Google Workspace とシームレスに連携（複数のアプリをまたぐ指示もスムーズに実行）
- ネイティブ・マルチモーダル処理により、テキスト・画像・音声・動画をひとつの思考プロセスで同時並行に処理できるため、高精度な解析が可能
- 大規模文書のコンテキスト処理に対応し、全体の一貫性を保ちながらの解析が可能

ChatGPT vs Gemini — 比較ポイント

比較項目	ChatGPT	Gemini
自然な文章生成	◎	○～◎
最新情報	○ (Web検索機能により対応可)	◎ (Google検索と連動)
Google 連携	△	◎
マルチモーダル対応	○ (画像・音声対応)	◎ (標準対応)
長文処理	○	◎ + (Google Docs などと相性が良い)
コーディング支援	◎	○～◎ (Gemini Code Assist)
企業利用の管理機能	有 (Team / Enterprise)	有 (Business / Enterprise)
学習済み知識の最新性	学習データ + 検索拡張	Web検索と連動しリアルタイム性が高い

活用シーン別おすすめ・併用のメリット

比較項目	ChatGPT	Gemini
向いている場面	● 企画書や提案書など、文書品質が重視される資料作成 ● 長文の要約や、論点を整理した構造化説明 ● デバッグやコード生成など、開発現場でのアイデア補助 ● 外国語文書の翻訳やグローバルコミュニケーション支援	● 最新ニュースや制度改正など、タイムリーな情報収集 ● Google Workspace（Gmail / Calendar / Docs 等）と連携した業務効率化 ● 画像・音声を含む資料の解析やマルチモーダル処理 ● 契約書・議事録など長文書の要約・分析
併用のメリット	文章表現、構成整理、アイデア出し	最新情報の取得、Google Workspace 連携、マルチモーダル処理
	ChatGPT と Gemini は得意分野が異なるため、併用することで業務効率をさらに高めることができます。 企画・資料作成は ChatGPT、情報収集や文書整理は Gemini といった使い分けを行うことで、それぞれの強みを活かした運用が可能です。	

まとめ

- ChatGPT は、自然な文章生成と対話の柔軟性が強み
- Gemini は、最新情報への対応力と Google 連携、マルチモーダル処理が得意かつGoogleエコシステム内での完結力が圧倒的
- どちらも無料で利用を開始でき、業務用途では有料プランにより管理機能や安定性が向上

業務内容や利用シーンに応じて、単独利用・併用を選択するのが現実的な活用方法といえます。

【当資料における免責事項】

本資料は、作成時点（2026年2月）における公開情報を基に作成しております。AI技術および関連サービスは極めて変化が速く、各ツールの料金体系、プラン内容、提供機能（UI/UX含む）などは、頻繁にアップデートが行われます。

そのため、本資料の閲覧時には情報が古くなっている可能性があります。当社としても定期的な情報のキャッチアップと資料のアップデートに努めておりますが、あまりに変化のスピードが速いため、すべての変更をリアルタイムに反映することが困難な場合がございます。

そのため実践の際は、あくまで作成時典の参考情報としてご覧いただき、最新の正確な情報は各サービスの公式サイト等でご確認ください。